

平成 29 年度公開研究授業指導案

教科	国語	科目	国語総合	授業担当者氏名	高橋 佑希
深く学ぶための問いかけ		情報の読み方・扱い方を学ぶ ～どのような情報が必要か～			
松陽スタンダード		論理的な思考力をもとに課題を発見し解決する力			

1. 実施日時 11月17日（金曜）5校時
2. 指導学級 1年4組 場所 1年4組教室
3. 単元名 情報を読む・評論（二） 全8限（本時はその第8限）
4. 単元の目標 文章や図表を的確に読み取ったり、目的に応じて情報を収集したりして、自分の考え方を深め、発展させること。
5. 単元の評価規準（科目にあわせた観点を記述）

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
論理的・実用的な文章や図表をその特色に注意して読もうとしている。 【読むこと・ア】	論理的・実用的な文章や図表をその特色に注意して読んでいる。 【読むこと・ア】	文章と図表の相互関係とその機能を理解している。 【〔事項〕のイ(イ)】

6. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	読	知	評価規準	評価方法
1	図表の読み方・扱い方	「大学入学共通テスト」モデル問題例と「情報を読む」(教科書 p.210) を分析する	図表の読み方・扱い方の重要性を理解すること	○			図表等をその特色に注意して読もうとしている	【記述の確認】 ノート
2	論理的な文章の内容および構成	「情報と身体」(教科書 p.100) を読解する	論理的な文章の内容および構成を理解すること		○		論理的な文章をその特色に注意して読んでいる	【記述の確認】 ノート
3	図表等を批判的に読む視点	「情報と身体」の文章と図表の関連性を分析する	文章と図表の相互関係を批判的に捉えること			○	文章と図表の相互関係とその機能を理解している	【記述の確認】 ノート
4	論理的な文章の内容および構成	「もの」の科学から「こと」の科学へ(教科書 p.106) を読解する	論理的な文章の内容および構成を理解すること		○		論理的な文章をその特色に注意して読んでいる	【記述の確認】 ノート
5	図表等を批判的に読む視点	「もの」の科学から「こと」の科学への文章と図表の関連性を分析する	文章と図表の相互関係を批判的に捉えること			○	文章と図表の相互関係とその機能を理解している	【記述の確認】 ノート
6	図表等を批判的に読む方法	図表等の分析とプレゼンテーションの準備	図表等を批判的に捉え、伝えるための工夫をすること		○		図表等をその特色に注意して読んでいる	【記述の確認】 ワークシート
7	必要な情報を収集する視点	図表等を用いたプレゼンテーションと質疑応答	図表等を批判的に捉え、収集すべき情報を判断すること	○			図表等をその特色に注意して読もうとしている	【記述の確認】 ワークシート
⑧								【行動の観察】 発表

※表中の評価の観点について → 関 … 関心・意欲・態度 読 … 読む能力 知 … 知識・理解

7. 本時の指導過程

本時の目標

プレゼンテーションと質疑応答を通して、目的に応じて収集すべき情報を判断すること。

生徒が主体的に思考し、学ぶための具体的な手立てを組み込んだ部分に下線

時間	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価観点
45分 (グループ発表)	<p>○発表(4班)</p> <p>(1)図表等を用いたプレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表班は、指定された図表等をもとに、適当な考察2点、不適当な考察1点を発表する(図表等の分析は第6限で行う) 他の班は、3点の考察のうち、どれが不適当な考察であるかを議論する <u>指名された一部の班(代表者)は、教師による3つの問いかけに答える。</u> <ol style="list-style-type: none"> ①どれが不適当な考察であるか ②なぜそのように考えたか ③不適当な考察を正しく根拠づけるためには、どのような情報が必要か 発表班は、どれが不適当な考察であるかを述べ、必要に応じて質問に答える <p>※上記の工程を4回(班)行う ※他4班は第7限で発表済み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5名×8班に分ける(役割:代表者1名、発表司会者1名、考察発表者3名) 図表等は、印刷して全員に配布する。また、発表時はスクリーンに投影する。なお、機器の操作は教員が行う 3点の考察は、あらかじめ紙に書き出させ、黒板に磁石で留めさせる 議論に際して、適宜ワークシートにメモをとらせる 発表は各班10分間とし、教員が計測する (内訳) 発表 3分間 議論 4分間 問答 2分間 質疑応答 1分間 	<p>【関・意・態】</p> <p>【関・意・態】</p>
5分 (講義)	<p>○まとめ</p> <p>(1)全体の講評</p> <p>(2)情報の調べ方(方法、文献等)</p>		
5分 (個人ワーク)	<p>○振り返り</p> <p>(1)授業評価シートによる本時の自己評価</p> <p>(2)大福帳(コミュニケーション・カード)による本時の振り返り</p>		

平成 29 年度公開研究授業指導案

教科	地理歴史	科目	世界史 A	授業担当者氏名	久世 真
深く学ぶための問いかけ		戦争裁判は、平和を作ることができたのか？			
松陽スタンダード		論理的な思考力をもとに課題を発見し解決する力			

1. 実施日時 11月 17日（金曜） 5校時
2. 指導学級 1年 1組 場所 1年 1組教室
3. 単元名 冷たい戦争の時代 全7限（本時はその第2限目）
4. 単元の目標 大戦後の世界が、周辺地域に戦争を押し付けながら「平和」を維持する冷戦構造であったことを、現代的視野から考えることができる。

5. 単元の評価規準（科目にあわせた観点を記述）

関心・意欲・態度	思考・判断・表現力	資料活用の技能	知識・理解
第二次世界大戦後、国際社会はどのように平和を実現しようとし、一方でなぜ対立したかを自ら追求することができる。	大戦後の冷戦構造が成立した原因を、大戦時の対立から考察し、適切に判断することができる。	文献・写真資料や経済関係のグラフ、地図を、適切に読み取り、冷戦の原因や構造を捉えることができる。	授業を通して適切な知識が身に付き、その知識を現在に生かそうとすることができるか。

6. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	資	知	評価規準	評価方法
1 ②	新たな対立と協調の模索 (本時)	国際協調体制の成立 戦争犯罪の処理	戦後の平和維持の仕組みができた一方で、戦争犯罪を裁く困難さにも直面したことを理解する。		○	○		連合国内に構築された戦後体制には、平和維持の仕組みという功績もあるが、戦争当事者が戦争を裁くという矛盾に直面した、という2つの側面があることを、国連憲章や裁判資料から判断できる。	発問 グループワーク ワークシート
3	対立する二つの陣営	冷戦体制の確立	大戦中の米ソの対立が、戦後決定的な形で噴出したことを理解する。		○		○	資本主義・社会主義というイデオロギーの対立を理解し、経済政策を通じて全世界的な対立になった原因と過程を考察できる。	発問 観察
4	アジアの独立と経済発展の道	中国の内戦と朝鮮戦争	冷戦構造は、アジアにおいて「熱戦」の形を取ったと理解する。		○		○	なぜアジアでは、冷戦が「熱戦」になったかを、大戦時の国共内戦などの構図から考えられ、原因となった国際・国内情勢を理解できる。	発問 観察
5	第三勢力の形成と南北問題	アジア・アフリカの自立	米ソ冷戦とは一線を画する諸国が現れたことを理解する。			○	○	なぜ新興諸国は両陣営に与しなかったのかを地図や資料を使って考えられる。また、第三勢力の台頭を他地域と結びつけ、冷戦構造が多極化したことを理解できる。	地図・ワーク

6	中東戦争とイスラーム復興	中東戦争・パレスチナ問題	アラブ人とユダヤ人の対立原因と、それが資源ナショナリズムにつながることを理解する。	○		○	なぜパレスチナ問題が混迷を極めるかを、以前の内容である英三枚舌外交から自ら考えられる。また、イスラームが反欧米の旗幟となった原因を理解できる。	発問 観察
7	アメリカ・ソ連の緊張と緩和	キューバ危機とその後の軍縮	キューバ危機の過程を理解し、その後どのように軍縮したかを考える。			○	なぜ、米ソ両国はデタント以降再び対立に至ったかをキューバ危機時の首脳の資料から理解できる。また、その後の軍縮の過程を理解できる。	ワークシート

※表中の観点について → 関 … 関心・意欲・態度 思 … 思考・判断・表現
資 … 資料活用の技能 知 … 知識・理解

7. 本時の指導過程

本時の目標 戦争裁判は、次なる戦争を抑止するためにはどれほど有効であったかを考えることができる。

生徒が主体的に思考し、学ぶための具体的な手立てを組み込んだ部分に下線

時間	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価観点
10分	戦後国際体制が連合国主導で行われたことを復習する。 「戦争犯罪」の概念を、実際の戦争の事例と引き合わせて理解できる。	前時の復習から、戦後体制における連合国の役割に気付かせる。また、それは過去の清算たる戦争裁判においても同様であると教科書から示し、発問し確認する。また、今回議論となる戦争犯罪の概念（「人道に対する罪」「平和に対する罪」）を提示する。	
20分	ワークシートにある罪状をもとに、「戦争犯罪」を実際に裁く体験を行う。	複数の被告人を例示し、彼らがどのような判決を下されるかを、提示された犯罪概念に則って、生徒自身が考える。 <u>4人1班となり、班員の中で議論し、班としての判決を出させる。</u> その後、いくつかの班に判決を発表させる。	議論に参加し、ワークシートの記述を利用して完成できているか。 【資料活用】
20分	実際の判例を教師から提示され、戦争裁判・戦争犯罪の難しさを考える。	戦争犯罪を当事者たる戦勝国が裁くことの難しさを、生徒の下した判決と、実際に下された <u>判決を比較しながら、班員とともに考えさせる。</u> 戦争裁判の必要性と問題点が顕在化したところで、本時の問である、「戦争裁判は、平和を作ることができたのか？」に対する答えを、各自がその理由とともに考え、ワークシートに記述する。	完成したワークシートを読み、問への答えを自分で考えて記述できているか。 【思・判・表】 【資料活用】
5分	本時の振り返りを行う。授業評価を記入する。	生徒による授業評価を実施する。	

平成 29 年度公開研究授業指導案

教科	数学	科目	数学 I	授業担当者氏名	青木優樹 山崎真歩
深く学ぶための問いかけ		三角比を含む二次式の最大・最小ってどう求めるの？			
松陽スタンダード		論理的な思考力をもとに課題を発見し解決する力			

- 実施日時 11月 17日 (金) 5校時
- 指導学級 1年2組、1年5組 場所 1年2組教室 1年5組教室
- 単元名 第4章 図形と計量 第2節 三角比の拡張 全12限 (本時はその第12限)
- 単元の目標 正弦、余弦、正接の相互の関係を理解し、それらを利用することができる。
- 単元の評価規準 (科目にあわせた観点を記述)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
鋭角・鈍角の三角比や図形との関係に関心を持ち、三角比を通して、見方や考え方を認識し、問題解決に活かそうとしている。	三角比の見方や考え方を身につけ、問題を多面的・発展的に考えている。	具体的な事象の数量関係を三角比の記号を用いて正確に表現できる。	直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。

6. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	見	技	知	評価規準	評価方法
1 2 3 4 5 6	三角比の拡張	三角比と座標	鈍角にまで拡張した三角比の定義を理解し、鈍角の場合と矛盾しないことを確認する。また、 0° 、 90° 、 180° の場合についての三角比も理解する。さらに $y = mx$ の傾き m と正接の関係について理解する。	○		○	○	計量を基に三角比に関心を持つ。 相似の考え方をを用いて、辺の比と角との関係を理解し、その有用性を認識する。 直角三角形が関係する計量問題を、三角比を用いて処理することができる。	授業の取組 課題提出 定期テスト 小テスト
7 8 9 10 11 12		三角比の性質	三角比の相互関係について理解を深め、それらを活用できる。	○	○	○	○	鈍角まで拡張した三角比の意義や三角比の相互関係を考察し、それらを理解する。	

※表中の評価の観点について → 関 … 関心・意欲・態度
 技 … 数学的な技能
 見 … 数学的な見方や考え方
 知 … 知識・理解

7. 本時の指導過程

本時の目標

二次関数を踏まえた三角比の最大・最小の問題を扱う。二次関数との関係性に気付かせ、導かせる。

生徒が主体的に思考し、学ぶための具体的な手立てを組み込んだ部分に下線

時間	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価観点
5分	・本時の学習内容の説明を聞く	・机間指導中にノートと教科書を出すように促す	
40分	1. 問題演習 二次関数の最大値・最小値（定義域あり） <u>・二次関数の基本知識を復習する</u>	<u>・最大値・最小値の変化に気付かせる</u>	
	2. 問題演習 三角比を含んだ二次関数の最大値・最小値 <u>・三角比を含んだ場合でも、二次関数に帰着させることによって、問題が解けることを認識する</u> ・テスト形式で類題を解く	<u>・生徒同士で話し合わせることを促し、少しずつヒント等を出していく</u> ・問題が解けない生徒がいれば、ヒントを与える	<関心・意欲・態度> ・積極的に問題を解いているか、お互いに教えあっているか。 <関心・意欲・態度> ・テストの問題をできたかどうか。
5分	・本時の内容の確認をする	・解答できなかった生徒に次回までに復習しておくように伝える	
5分	本時の振り返りを行う。 授業評価を記入する。	生徒による授業評価を実施する。	

平成 29 年度公開研究授業指導案

教科	理科	科目	物理基礎	授業担当者氏名	五十嵐 勇介
深く学ぶための問いかけ		ポンポン船はなぜ、動くのだろう？			
松陽スタンダード		論理的な思考力をもとに課題を発見し解決する力			

1. 実施日時 11月 17日（金曜） 5校時
2. 指導学級 1年6組 場所 物理実験室教室 （南館3階）
3. 単元名 熱とエネルギー 全4限（本時はその第4限目）
4. 単元の目標 様々な物理現象を観察・実験などを通して探究し、それらの基本的概念や法則を理解させ、物理現象とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身につけさせる。
5. 単元の評価規準（科目にあわせた観点を記述）

関心・意欲・態度	科学的な思考・判断	実験の技能・表現	知識・理解
熱機関が、われわれの生活の中でどのように活用されているか、関心をもっている。	不可逆変化の現象例をあげることができ、なぜ「一般に熱が関係する現象はすべて不可逆変化」なのかを説明できる。	身近な材料を用いて、不可逆変化を実際に起こすことができる。	熱機関と熱機関の効率について理解している。

6. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	実	知	評価規準	評価方法
1	熱と熱量	ピンを暖めると10円玉が動くのはなぜか。	温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できる。				○	温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。	発言 ノート 演習問題
2	熱と物質の状態	ピーナッツでお湯が沸くか。	身近な材料を用いて、不可逆変化を実際に起こすことができる。		○	○		身近な材料を用いて、不可逆変化を実際に起こすことができる。	発言 ノート 演習問題
3	熱と仕事	圧縮発火器で火がつくのはなぜだろうか。	物体に仕事をさせることによって温度が上昇することを、実験で確認できる。			○		物体に仕事をさせることによって温度が上昇することを、実験で確認できる。	発言 ノート 演習問題

4	不可逆変化と熱機関	ポンポン船はなぜ動くか考えよう。	熱機関が、われわれの生活の中でどのように活用されているか、関心を持つことができる。	○				熱機関が、われわれの生活の中でどのように活用されているか、関心をもっている。	発言 ノート 演習問題
---	-----------	------------------	---	---	--	--	--	--	-------------------

※表中の評価の観点について → 関 … 関心・意欲・態度 思 … 科学的な思考
 実 … 実験の技能・表現 知 … 知識・理解

7. 本時の指導過程

本時の目標

熱機関が、われわれの生活の中でどのように活用されているか、関心を持つことができる。

生徒が主体的に思考し、学ぶための具体的な手立てを組み込んだ部分に下線

時間	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価観点
4分	前時の復習を行う		発言ができたか <関心・意欲>
5分	発問 ポンポン船はなぜ動くのだろう。	崖の上のポニョのシーンで、そうすけがポンポン船を動かすシーンのことを話す。	
13分	<u>ポンポン船を実際に動かしてみる。観察を行う。</u>	マッチのすり方をもう一度確認する。	
8分	<u>なぜポンポン船が動くのか原理をノートに書く。</u>	黒板に言葉を書き、生徒がその言葉を使ってノートに書ける様にする。	ノートに記述できたか。 <関心・意欲>
10分	生徒が教科書を読む。板書をする。		
10分	問10を解く。できたものは、ワークの問題を解く。振り返りを行う。	全員のノートを確認できるように速やかに○付けを行う。	教科書の問題を解けたか。 確認をする。 <関心・意欲>
5分	授業評価を実施する。		

平成 29 年度公開研究授業指導案

教科	保健体育	科目	保健	授業担当者氏名	今井 富美代
深く学ぶための問いかけ		欲求が満たされない。その時、あなたはどのようにする？			
松陽スタンダード		論理的な思考力をもとに課題を発見し解決する力			

1. 実施日時 11月 17日（金曜） 5校時
2. 指導学級 1年3組 場所 1年3組教室
3. 単元名 現代社会と健康 ウ 精神の健康 欲求と適応機制 全4限（本時はその第1限目）
4. 単元の目標 人間の欲求と適応機制には様々な種類があること、精神と身体には密接な関連があること、また、精神の健康を日々増進するには、欲求やストレスに適切に対応するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることを理解できるようにする。

5. 単元の評価規準（科目にあわせた観点を記述）

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
人間の欲求と適応機制には様々な種類があり、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を日々増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、意見交換したり、発表したりしようとしている。	人間の欲求と適応機制には様々な種類があり、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を日々増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、自分の経験や意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活にあてはめたりして、選択すべき行動を判断している。	人間の欲求と適応機制には様々な種類があり、精神と身体には密接な関連があること、精神の健康を日々増進するにはストレスへの適切な対処や自己実現への努力が必要であることについて、学習した内容を発言したり、記述したりしている。

6. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	思	知	評価規準	評価方法
1 ・ 2	欲求と適応機制	欲求が脳の働きによってコントロールされていること、欲求、障壁、欲求不満、葛藤、適応機制について理解する。	欲求と脳の間を関係させる。欲求、障壁、欲求不満、適応機制について、身近な具体例をあげながら理解させる。		○	○	欲求と脳の間を関係、欲求、障壁、欲求不満、適応機制について理解できている。欲求への最適な対処法を考えることができる。	【記述の確認】 ワークシート 【行動の観察】 ペアワーク
3	心身の相関とストレス ストレスへの対処	心と体の密接な関係について理解する。ストレスの対処法について理解する。	心身相関について理解させる。ストレスの対処法について理解させる。			○	心身相関について理解できている ストレスに対するさまざまな対処法を理解できている。	【記述の確認】 ワークシート

4	心の健康と自己実現	自分らしく、豊かで健康的な生活を実現するためには何をすればよいかを考える。	自分の考えを他者に伝え、共有させる。	○	○		自己実現のために何をすればよいかを考え、その考えを他者に伝え共有することができる。	【記述の確認】 ワークシート 【行動の観察】 グループワーク
---	-----------	---------------------------------------	--------------------	---	---	--	---	---

※表中の評価の観点について → 関 … 関心・意欲・態度 読 … 読む能力 知 … 知識・理解
7. 本時の指導過程

本時の目標

欲求が満たされない時の対処の仕方について考える。

障壁、葛藤、欲求不満、適応機制について理解する。

生徒が主体的に思考し、学ぶための具体的な手立てを組み込んだ部分に下線

時間	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価観点
8分	挨拶、出席確認 2分間スピーチ ・調べてきたことを発表する。 ・評価表を記入する。	発表する環境、聞く環境を整える。	【思考・判断】
2分	本時の内容を確認する。	本時の内容を伝える。	
5分	ワークシート記入 ・ <u>現在、自分が抱えている満たされない欲求、その欲求充足の妨げとなっていること、欲求が満たされないことに対しどのように対処しているかを考え記入する。</u>	自分自身で抱えている欲求について考えさせる。	【思考・判断】
10分	ペアワーク ・ワークシートに記入した内容をお互いに確認する。 ・ <u>現在行っている対処とは別の方法で対処できないか</u> を考える。 ・考えたことを発表する。 ・発表を聞き、欲求が満たされない時の対処の仕方はひとつではなく色々な方法があることを知る。	机間指導し、活発な意見交換ができるよう助言する。 発表を聞く環境を整える。 数名を指名し発表させる。 欲求が満たされない時の対処の仕方には色々あること、最適な対処法を選択し対処することが大切であることを確認させる。	【思考・判断】
20分	・「障壁」、「葛藤」、「欲求不満」、「適応機制」について理解する。	ワークシートを用いて、「障壁」、「葛藤」、「欲求不満」、「適応機制」について理解させる。	【知識・理解】
5分	本時の学習内容を振り返る。	本時の内容を確認させる。 次時の予告をする。 ・欲求が満たされない時に最適な対処法を選択し対処することができるようになるために、欲求、適応機制についてさらに詳しく学ぶことを伝える。	
5分	本時の授業評価をする。	本時の授業で思考力の高まりがあったかについて振り返りをさせる。	

平成 29 年度公開研究授業指導案

教科	英語	科目	コミュニケーション 英語 I	授業担当者 氏名	畑瀬 敏樹
深く学ぶための問いかけ		本文中で、印象的だった、または同感した、または疑問を持った部分はどこか。			
松陽スタンダード		言語活動の基盤となる言葉の力			

1. 実施日時 11月 17日 (金曜) 5校時
2. 指導学級 1年7組 場所 1年7組教室
3. 単元名 Lesson 6 Roots & Shoots 全12限 (本時はその第12限目)
Optional Reading: Message for High School Students

4. 単元の目標

- (1) 分詞構文の意味と構文を理解する。
- (2) 形式主語 It が that 節を指す構文を理解し、自分で使えるようにする。
- (3) 同格を表す表現に触れ、長文の中で正しく理解できるようにする。
- (4) 野生の動植物と人間の望ましい関係を考える。
- (5) Jane Goodall 博士のこれまでの経歴を学び、生徒が自分の進路について考えるきっかけの一つとする。

5. 単元の評価規準 (科目にあわせた観点を記述)

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化に関する知識・ 理解
本文の内容について、 グループなどで意見や 感想を述べ、話し合う。	分詞構文・仮主語の It・同 格を使った英文を書くこと ができる。	パラグラフごとの大意を読 み取り、読みとった内容を 自分の問題としてとらえ、 考えている。	分詞構文・仮主語の It・同格 を使った英文の構造と意味 を理解している。

6. 単元の指導と評価の計画

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	分詞構文	分詞構文を 使った英文の 意味を理解 し、分かりや すい英語にす る。	分詞構文の意味 と構造を、英語 で理解する。		○			分詞構文を、接続詞 を使った文に正しく 書き換えられる。	【記述・発表の 確認】 問題演習の解答 (板書、口頭)
2	(1) 形式主語 It が that を指す構 文 (2) 同格	(1) It指す内 容をと らえる。 (2) 文中の 同格の 部分を 判別す る。	(1) 代名詞が 指すもの を常に意 識させる。 (2) 様々な同 格を理解 させる。				○	(1) It が指す内容を 正確に指摘でき る。 (2) 同格を含む英文 の意味を正確に とらえられる。	【記述・発表の 確認】 問題演習の解答 (板書、口頭)
3~10	各 Section (1, 2, 3, 4)	個々の英文の おおよそを理 解し、セク ションごとの 大意を把握す る。	代名詞の内容な どを確認し、訳 ではなく、理解 することを目指 す。	○			○	個人で考えると共 に、グループでの話 し合いに参加してい る。 大意を適切に発表し ている。	【行動の観察】 グループワーク への参加 【発表の確認】 個人発表

時	学習内容	学習活動	ねらい	関	表	理	知	評価規準	評価方法
11	(1) Comprehension (2) Exercises	(1) 英問英答に取り組み、文章全体の意味の理解を確認する。 (2) 新出構文を定着させる。	(1) 解答の根拠を明らかにし、正確に理解させる。 (2) 別解も考えさせ、表現力を向上させる。		○	○	○	【表】一つの英文を、様々な表現を使って書き換えられる。 【理】解答の根拠が適切である。 【知】構文が適切である。	【記述・発表の確認】 問題演習の解答(板書、口頭)
12	Optional Reading	(1) 本文の大意をつかむ。 (2) それを自分の進路と結び付ける。	(1) 速読を実践する。 (2) 文章を読む目的に応じて、情報を取捨選択する。	○		○		個人で考えると共に、グループでの話し合いに参加している。感想が、本文の大意を踏まえている。	【行動の観察】 グループワークへの参加 【発表の確認】 個人発表

※ 表中の評価の観点について → 関 … 関心・意欲・態度 表 … 表現の能力 理 … 理解の能力
知 … 言語・文化に関する知識・理解

7. 本時の指導過程

本時の目標

- (1) 自分が必要とする情報を素早く読み取る。
- (2) 読み取った情報をもとに、自分の進路を考える。

生徒が主体的に思考し、学ぶための具体的な手立てを組み込んだ部分に下線

時間(累計)	時間	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価観点
1分	5分	挨拶 本時のねらいを提示。 本文の内容の復習	教科書94-95ページを開かせ、これまでの内容と関連があることを認識させる。	
7分	2分	本時の目標の提示 (1) 筆者を支えてきたのは、誰の、どんな言葉だったか。 (2) <u>本文中で、印象的だった、または同感した、または疑問を持った部分はどこか。</u>	この文章を読んだ後、自分の進路へのかかわりを考えるよう、提示しておく。 (1)は客観的に答えられるが、 (2)は人によって異なることに留意させる。	
10分	3分	語彙の確認	音読させる。	
23分	13分	ワークシートの問題に対する答えを探しながら、1人で時間内に黙読する。	分からない部分は、飛ばして読むように指示する。	【理解】 記入内容
36分	13分	(1)について、グループで話し合い、発表する。	内容は、おおよそでよい。	【関心】 行動の観察 【関心】 発表
41分	5分	(2)について、グループで話し合い、発表する。	どの意見が正しいかを議論するのではなく、個々人の考えを共有する。	【関心】 行動の観察
48分	7分	質疑応答	日本語でもよいが、できる限り英語を使う。	【関心】 発表
50分	2分	まとめ	自分の進路について、これからも考えるよう、伝える。	
55分	5分	授業評価	生徒による授業評価を実施。	